

【事務局より】
公表文献1報がリスク管理機関から提出されました。
「No.」～「備考」はリスク管理機関から提出された資料のままの記載としています。
「分類の判断理由」には、論文の概要を記載しています。
文献の研究結果の分類(「評価に使用する可能性のある文献」/「評価に使用しない文献」)及び分類の判断理由に記載する内容について、御検討ください。

通し番号	No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	研究分野	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	<i>in vivo</i> (動物種)/ <i>in vitro</i>	用量 (mg/kg体重又は mg/kg体重/日)	NOAEL ／NOEL	LOAEL ／LOEL	Klimisch コード	評価の目的との適合性に関する情報	備考	研究結果の分類	分類の判断理由
1	6-1-3	Comparative study of human and mouse pregnane X receptor agonistic activity in 200 pesticides using in vitro reporter gene assays	Toxicology, Vol. 280, Issue 3, Page 77-87	2011	Hiroyuki Kojima, Fumihiro Sata, Shinji Takeuchi, Tatsuya Sueyoshi, Tadanori Nagai	Hokkaido Institute of Public Health, Kita-19, Nishi-12, Kita-ku, Sapporo 060-0819, Japan National Institute of Public Health, 2-3-6, Minami, Wako City, Saitama 351-0197, Japan National Institute of Environmental Health Sciences, National Institute of Health, 111 T. W. Alexander Drive, Research Triangle Park, NC 27709, USA	https://doi.org/10.1016/j.tox.2010.11.008	繁殖毒性	原著	無	無	<i>in vitro</i>	0.1 nM ～ 10 nM	－	－	－	論文では、インダノファンを含む200種の農業有効成分について、ヒトPXR(hPXR)及びマウスPXR(mPXR)に対するアゴニスト活性をアッセイし、それらの結果を比較している。インダノファンでは強いアゴニスト活性があると報告された。 対応するガイドラインがないこと、リスク評価パラメータの見直しないし見直しの補助データでもないことから、分類区分はcと判断される。			【小嶋専門委員より】 いずれも意見書および総説のため、採用しないことで良いと思います。 【豊田専門委員より】 いずれも意見書・総説ということで除外に同意致します。 【中島専門委員より】 評価に使用しない。 【久野専門参考人より】 採用すべき論文はないと考えます。 【平林専門参考人より】 特にコメントなどはございません。 【文献の概要等】 ・作用機序に関する文献（定性的） ・農業の、ヒトプレグナンX受容体(hPXR)及びマウスPXRに対するアゴニスト活性を、サル腎細胞を用いたレポーター遺伝子アッセイで調べた論文 ・インダノファンは、hPXR及びmPXRへのアゴニスト活性を有した。mPXRよりもhPXRに対し強いアゴニスト活性を示した(REC₂₀ : hPXRで7.7×10⁻⁷M、mPXRでは1.5×10⁻⁶M ; Table 2、及びFig.3)。 ・インダノファンの被験濃度は、他農業での用量反応曲線から推察して、10⁻⁸、10⁻⁷、10⁻⁶及び 10⁻⁵Mを含む模様 (Fig.2)。 ・評価書案に、これら受容体に直接関連する試験なし。